



理事長 しら いし やすし
白石 靖

「なぜだかはわかりませんが、この道を選んでいました」。

白石靖理事長の人生には、そうした瞬間が幾度もあったといいます。社会福祉法人千寿会へ入職するまでを振り返りながら、運命の道筋をたどります。

子ども時代、熱中していた スポーツがあれば教えてください。

中学校では文武両道の子で、野球に打ち込んでいました。ポジションはキャッチャーで、けがをしてからはファーストに。自慢ではありませんが、かなりセンスはあるほうで大会では最高殊勲賞選手、いわゆるMVPにも2回ほど選出されています。

高校進学時にも野球部から声がかかり、入学前に一度集まる約束をしていました。しかし、その日にちょっとした理由で出席できず、そのまま野球を辞めてしまったのです。不思議と未練はありませんでした。ただ、そこに運命の分かれ道があっ

ただけのことなのでしょう。

どのような高校生活を 送ったのですか。

やんちゃな生徒でしたね。「高校デビュー」ではありませんが、それまでとは打って変わって学校をさぼって喫茶店にいるような毎日を送っていました。バンドを組んで、ボーカルを務めてライブハウスなどで歌っていました。

周囲はそういう私をおもしろがって、知らないうちに生徒会長に立候補させられていました。立候補を知ったのは立会演説の前日。応援演説をした友人が演台の上で正座してお経を読み始めると、観衆は大盛り上がり。私のやる気に関係なく、生徒会長に選ばれたのです。その後も喫茶店にばかりいるものですから、お店に「今から生徒会の会議です」と電話がかかってくることもありました（笑）歴代会長の中で、生徒会功労賞をもらえなかった唯一の人みたいです。



▲学生時代の白石理事長

そうして楽しい日々を送っていたせいか、成績はガタ落ち。入学時は400人中4～50番だったところが、卒業時には後ろから数えて何番目、という具合でした。おかげで受けた大学はすべて不合格で、予備校に通うことになりました。

その頃に思いがけない エピソードがあったそうですね。

予備校在学中、実はある出来事が起こり、家出をして東京へ行くこととなります。しかし、未成年でなかなか仕事が見つからず、金型大工の棟梁に弟子入りして建設現場で働きました。当時は「この仕事をずっと頑張っていこう」と思っていたのですが、やむを得ない状況が起こり1年ほどで熊本に戻らざるを得なくなってしまいました。

それからはどのような 仕事を体験したのでしょうか。

家業の化粧品店を継ぐため、株式会社資生堂の銀座の店舗で修業することになりました。銀座のホステスさんにモテモテで、彼女たちにメイクをするうちに腕が上がり、イヴ・サンローランを扱う株式会社ケリングジャパンイヴ・サンローランディビジョンにスカウトされたこともあります。社長の前でメイクを実演すると「うちに来ないか」と誘われましたが、実家や周りの関係者は大反対。修業に行っているのですから、当然です。結局、3年ほどの修行の後、実家に戻るようになりました。

その後、約3年間は実家で経営している化粧品

店で働いていましたが、「このままではいけない」という漠然とした不安から工業薬品の容器を製造するメーカーへ転職します。営業として3～4年勤めました。製品に不具合があると夜中でも飛んでいかなければならず、苦労した覚えがあります。

千寿会へ入職したのは 何がきっかけだったのでしょうか。

1993年（平成5年）に父の友人の間部先生が千寿会を設立することになり、「特別養護老人ホームで働いてみないか」と声をかけられました。その間部先生が父と一緒に仲間を集めて法人を立ち上げるというのです。

当時在籍していたメーカーからは、ずいぶん引き止められました。「熊本営業所の所長の椅子を用意するから」とまでいわれたのですが、私は千寿会を選びました。特別養護老人ホームの仕事内容もよく知らず、何か特別な理由があったわけでもありません。ここにも、運命の分かれ道があったのかもしれないね。

当時の立ち上げメンバーは28人。全員施設経験もなく、何もわからないままの手探りでスタートでした。それでも、私は仕事が楽しくて仕方がなかったのです。

何かに導かれるように選んだ、千寿会への道。決して楽ではない介護の仕事に、白石理事長は大きな喜びを見出していたといいます。その喜びの源となったのは、利用者様の笑顔でした。

（後編に続く）



▲愛犬ビッグと一緒に

私たちはこんな仕事をしています！
Vol.01

Zoom in!!

陽光園東館 チーム紹介

総勢17名が働く陽光園東館では、職種の垣根を超え、チーム一丸で利用者様の毎日がより良くなるようサポートをしています。マネージャーの東さんが、実施している工夫や心がけなどについて話してくれました。



陽光園東館チームについて

いろんな個性あふれる職員(笑)が、ワンチームで利用者様の毎日をサポート

現在、看護師3名、介護職13名、そして相談員兼ケアマネージャーの私を含めた17名で利用者様の生活をサポートしています。利用者様は30名。それぞれ10名ずつの3つのユニットに分けてはいますが、職員の配置固定はしていません。利用者様一人ひとりがこの施設で一番良い過ごし方ができるよう、スタッフ全員で考え協力し合っています。

Check point!

チームの雰囲気

利用者様、ご家族様、職員が、大きな家族

開設当初は町外からの利用者様が半数を占めていたこともあり、ご家族様同士の関係も希薄でした。そこでご家族様に手伝ってもらい、お花見や餅つき、夏祭りなどのイベント準備をお願いすることにしました。その結果、ご家族様同士の交流が生まれ、職員とのコミュニケーションも円滑に。その後も面会に来られたご家族とも気さくな関係ができ、まるで家族のように、良好な関係を築いています。また、職員一同利用者様を笑わせることが大好き。大変なことも笑いに変えながら、皆で和気あいあいと仕事をしています。



陽光園東館 マネージャー
ひがし みほ
東 美穂さん
と介護部長の大福くん

陽光園東館チーム独自の取り組み

夜の入浴介助で心と時間に余裕を

重度の認知症や寝たきりの利用者様が多く、30名中14名が食事介助を必要としているため、午前中は入浴介助に手が回らないこともあり。そこで2024年7月からは夜の入浴を始めることに。夕方以降の人員を1名増やしローテーションで対応した結果、余裕をもってケアにあたれるようになりました。日中は散歩へ行きたい利用者様と外へ、夕食後はお菓子を食べながら利用者様と会話やゲームを楽しむ。そうした心と時間の余裕を持つことが可能になったのではないかと思います。



レウの様子



今後の目標

チーム力強化を目指して

理事長が大切にしているのは「笑顔」です。常に利用者様、ご家族、職員の笑顔が絶えないのが陽光園東館です。笑顔は、人を元気にし、人間関係をより良くします。私たち東館は、その笑顔の力で、スタッフの年齢や性別、職種や立場に関係なく、気づいたことは何でも言えるオープンな環境づくり、また、スタッフ全員が利用者様一人ひとりを理解し、状況判断できる状態へと成長することが目標です。

「月刊笑」発刊のお知らせ！

発行日

毎月10日
と25日

千寿会の社内報プロジェクトがスタートします！皆さんに長く愛される社内報となるよう様々な企画を実施予定です！これからよろしくお祈りします！

発行の目的

1

チームの団結力をより強めるツールとして

2

職員の皆さんを称賛するツールとして

3

理念や大切にしている価値観を共有するツールとして

こんな企画を実施予定です！

- ・社員インタビュー
- ・利用者様からの嬉しい声
- ・千寿会を支える方のお仕事紹介 など

メイン担当である杉山さんからコメントをいただきました！



法人事務局
すぎやま あつひこ
杉山 淳彦さん

皆さんへのメッセージ

社内報は日々の業務や取り組みの成果を共有し、チーム全体の連帯感を高めるための大切な機会です。従業員の皆様一人ひとりの努力が、千寿会の成長と発展に繋がっています。その功績を称え、さらなる挑戦へと繋げる場として、この社内報が皆様のモチベーションを一層高める一助となれば幸いです。これからも、皆様と共に成長し続ける千寿会を目指して、法人内でのコミュニケーションを大切にまいります。今後ともご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます！

こんな企画やってみたい！

- ・法人内で行われているサークル活動などの紹介
- ・職員の子どもの時代の写真を掲載し、それがどの職員かを当てるクイズ企画
- ・各職員の趣味や特技、休日の過ごし方を紹介するコーナー
- ・職員全員参加型チャレンジ企画(歩数チャレンジなど)